

特別講演 2

「石綿関連呼吸器疾患の画像診断」

福井大学医学部長・大学院医学研究科長

伊藤 春海 先生

石綿由来の繊維状粉塵を吸入することにより発症する呼吸器疾患が注目されている。その診断に胸部エックス線写真、CT が用いられる。CT は診断精度が高く、石綿関連呼吸器疾患を疑った場合には必須の検査となる。以下代表的疾患につき画像所見を要約する。

1. 胸膜プラーク

石綿暴露の指標として重要である。壁側胸膜の肥厚が、低吸収体の肺実質に対してコントラストを生じ診断出来る。背側、側胸部、傍堆体部に好発する。石灰化を伴うことが多い。

2. 石綿肺（アスベストosis）

両側の下肺野に粒状・網状影が見られ、特発性肺繊維症の画像に似る。進行例では蜂巣肺、横隔膜影高位を認める。胸膜プラークを伴う例が多いので注意する。

3. 肺がん

末梢肺野、気管支のどちらにも発生する。胸膜プラークや石綿肺を伴う肺がんは胸部エックス写真で発見し難い場合があり、CT が有用である。

4. 中皮腫（メソテリオーマ）

肺胸膜の腫瘍性肥厚が、肋骨側、縦隔側、横隔膜側、葉間などで見られる。肺は縮み、肋間隙が狭くなる。